

令和3～6年度 文部科学省研究開発学校指定

**新設教科「地域創造学」を中核とした
教育課程等の開発による社会的実践力の育成
～小・中・高等学校の滑らかな接続を活かして～**

日時：令和7年1月23日（木）

住田町立世田米小学校 外4校

1 なぜ「地域創造学」か

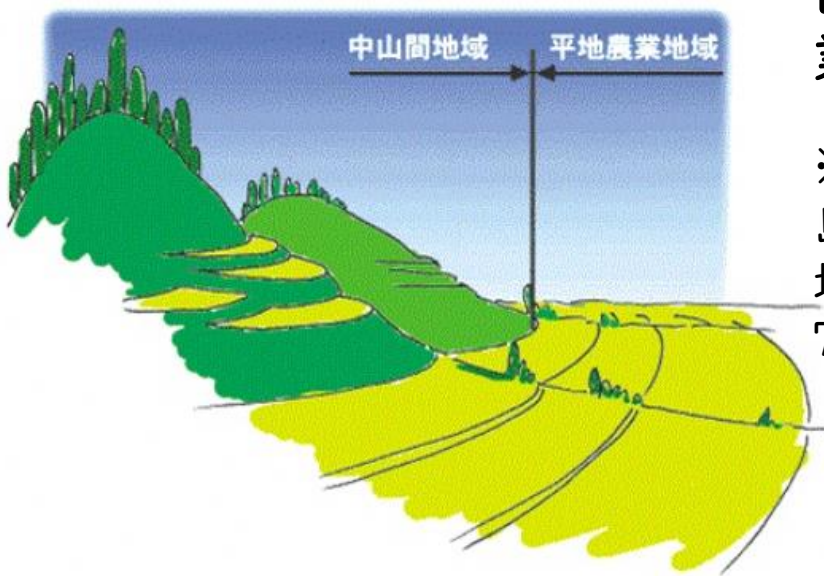
(1) これまでの経緯

① 中山間地域の現状

・ 中山間地域とは…

○農林水産省による農業地域累計型区分のうち、中間農業地域と山間農業地域を合わせた地域

※平野の外縁部から山間部、過疎地域や離島を含めた都市部、平野部以外の条件不利地を指すこともあり、日本の国土面積の約7割を占める

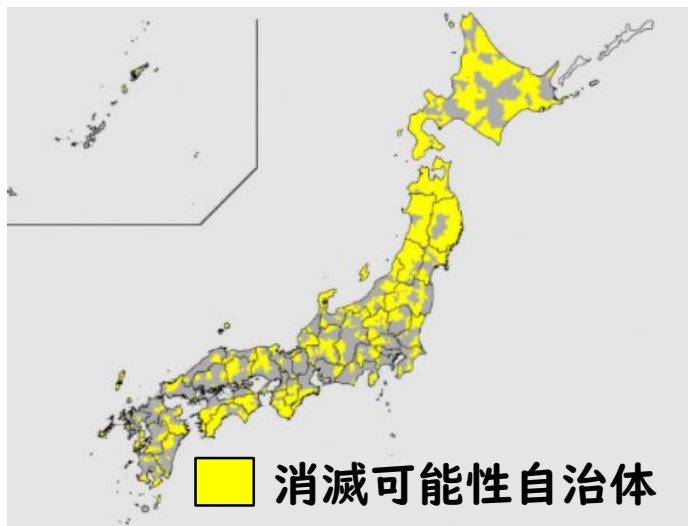


・不利な条件地にも関わらず、農業の中で重要な役割がある他、洪水や土砂崩れを防ぐなど、多くの機能で日本国民の生活を守る役割を担う

1 なぜ「地域創造学」か

(1) これまでの経緯

① 中山間地域の現状



人口戦略会議(2024)
「地方自治体『持続可能性』分析レポート」

◆若年女性人口が2020年から2050年までの30年間で50%以上減少する自治体を「消滅可能性自治体」

※「消滅」…人口減少が進み、自治体運営が立ちゆかなくなる状況

◆全国1729自治体中、744自治体が該当



約4割の自治体が、自治体運営が立ちゆかなくなる可能性がある

1 なぜ「地域創造学」か

(1) これまでの経緯

①中山間地域の現状

○住田町

- ・人口・・・4,687人(令和6年11月末時点)
- ・総面積・・・335km²(うち森林面積303km²)
- ・産業・・・林業、農業等がさかん
- ・豊かな自然・・・五葉山、種山、気仙川等
- ・町内の小中高4校と今年度生徒数
 - 世田米小学校(83名)
 - 有住小学校(50名)
 - 住田中学校(80名)
 - 県立住田高校(61名)



1 なぜ「地域創造学」か

(1) これまでの経緯

①中山間地域の現状

○住田町の人口推移

・ 1960年 ・ ・ 約12600人

・ 2024年 ・ ・ 約4700人

・ 2040年 ・ ・ 約3200人

まで減少見込み
(老齢人口は約46%に)

【住田町人口ビジョン・総合戦略・総合計画(平成30年9月改訂版より)】



**地方では地域を支える人材の育成が急務。
地域はそこにあり続けるとすれば、それを支える人材が
なければならない**

1 なぜ「地域創造学」か

(1) これまでの経緯

② 「総合的な学習の時間」と何が違うのか

現状のカリキュラムの問題点

◆総合的な学習の時間の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようになる。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようになる。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

1 なぜ「地域創造学」か

(1) これまでの経緯

② 「総合的な学習の時間」と何が違うのか

現状のカリキュラムの問題点

◆総合的な学習の時間の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、**よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力**を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようになる。
- (2) **実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。**
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

1 なぜ「地域創造学」か

(1) これまでの経緯

② 「総合的な学習の時間」と何が違うのか

現状のカリキュラムの問題点

◆総合的な学習の時間の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、**よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力**を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。

自分の居住地域（中山間地域）が抱える課題とは限らない

生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

1 なぜ「地域創造学」か

(1) これまでの経緯

② 「総合的な学習の時間」と何が違うのか

現状のカリキュラムの問題点

◆総合的な学習の時間の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、
よりよく課題を解決し、**自分の生き方を考えていくための資質・能力**を次のとお

これまでの教育課程において、**地域を学ぶ取り組み**
は数多く行われてきたが、**中山間地域を支える人材を**
意図的に育成しようとする取組は稀。

→日本の国土を支える

中山間地域を担う人材育成が急務

【意図的・計画的】

1 なぜ「地域創造学」か

(1) これまでの経緯

② 「総合的な学習の時間」と何が違うのか

◆地域創造学

子どもたちに、**これからの社会を逞しく生きるための資質・能力**を育むとともに、中山間地域を支える人材育成に向けて、**地域を愛し、地域に誇りを持ち、地域を支えるために必要な資質・能力**を育むための教科。

- ・ 小学校
1年生106時間、2年生110時間、3・4・5・6年生85時間
- ・ 中学校
1年生59時間、2・3年生79時間
- ・ 高等学校
各学年35時間

1 なぜ「地域創造学」か

(1) これまでの経緯

② 「総合的な学習の時間」と何が違うのか

	地域創造学	総合的な学習の時間
特 性	地域そのものを理解したり、地域を支えようとしたりすることを柱に据えた、日々暮らしている地域資源に特化したカリキュラムを通して、 中山間地域を支える人材を育成 する。	国際理解、情報など現代的な諸課題に対応する課題、児童生徒の興味・関心に基づく課題など、横断的・総合的な課題を設定し、専門家などの多様な教育資源を活用しながら探究的な学習に取り組み、 自己の生き方を考える力を育成 する。
資 質・能 力	これからの社会を逞しく生きるためのものであるとともに、地域を愛し、地域に誇りを持ち、地域を支えるためのもの(4つのカテゴリーから12の資質・能力で整理)。	よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくためのもの(3つの柱で整理)
カリキュラム設定 (推進体制)	地域の教育委員会と(保)・小・中・高が連携し、協働で現状を分析。地域全体の課題、実情を踏まえ、地域創生、地域の存続に向けた地域づくりの主体育成という視点から、長期的視点に立って 地域(町村)全体 で開発。	各学校 において定める。
目 標	住田町及び近郊地域社会をフィールドにした横断的で探究的な学習活動を意図的・計画的に行うことを通して、新しい時代を切り拓き、 社会を創造していくための社会的実践力を身に付けた心豊かな人材を育成 することを目指す。	探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、 自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成 することを目指す。

2 「地域創造学」の実施にあたって

(1) 1期目の成果と課題

①推進体制の確立

☆新しい時代を切り拓くために必要とされる
資質・能力（社会的実践力）の規定

「社会的実践力」

||

子どもたちが変化の激しい社会において、充実した人生を実現していくために、**豊かな心を持ち、自ら主体的に未来の社会を創造**していくことのできる力

2 「地域創造学」の実施にあたって

(1) 1期目の成果と課題

①推進体制の確立

☆地域創造学で育む社会的実践力を形作る12の資質・能力

社会的 実践 力	A 地域理解	
	B 社会参画に関する資質・能力	1 ☆ 見通す力
		2 ☆ 多面的・多角的に考える力
		3 ☆ 提案・発信する力
		4 ★ 好奇心・探究心
		5 ★ 困難を解決しようとする心
	C 人間関係形成に関する資質・能力	1 ☆ 伝え合う力
		2 ☆ 協働する力
		3 ★ 他者受容
	D 自律的活動に関する資質・能力	1 ☆ 自己を見つめる力
		2 ☆ 調整する力
		3 ★ 自己肯定感

2 「地域創造学」の実施にあたって

(1) 1期目の成果と課題

①推進体制の確立

☆地域創造学で育む社会的実践力を形作る12の資質・能力

A 地域理解

自分たちの地域の歴史や文化、現状や抱えている課題、活用資源を理解し、ふるさとに愛着を持ちながら、町の発展・創造に関わる自分の役割を捉える資質・能力

◎住田ならではの地域社会のよさや課題等を探究的に学習

2 「地域創造学」の実施にあたって

(1) 1期目の成果と課題

①推進体制の確立

☆地域創造学で育む社会的実践力を形作る12の資質・能力

B 社会参画に関する資質・能力

「ひと・もの・こと」等の地域の実情を理解し、身の回りにある問題や課題をとらえ、これからの地域の在り方やよりよい社会づくりについて提案・発信することに関わる資質・能力

☆見通す力

☆多面的・多角的に考える力

☆提案・発信する力

★好奇心・探究心

★困難を解決しようとする心

2 「地域創造学」の実施にあたって

(1) 1期目の成果と課題

①推進体制の確立

☆地域創造学で育む社会的実践力を形作る12の資質・能力

C 人間関係形成に関する資質・能力

学びを深めたり、目標の達成を行ったりするために、他者と協力することにつながる資質・能力

☆伝え合う力

☆協働する力

★他者受容

自分を取り巻く他者、集団、社会とのかかわりの中で、望ましい人間関係の形成を目指す。

2 「地域創造学」の実施にあたって

(1) 1期目の成果と課題

①推進体制の確立

☆地域創造学で育む社会的実践力を形作る12の資質・能力

D 自律的活動に関する資質・能力

自分自身の置かれている状況や考え、感じていること等を認識し、それに応じてよりよい方向に調整しながら、学びや活動を推進することに関する資質・能力

☆自己を見つめる力

☆調整する力

★自己肯定感

自分のよさや可能性をとらえることにつながる。

2 「地域創造学」の実施にあたって

(1) 1期目の成果と課題

①推進体制の確立

☆地域創造学で育む社会的実践力を形作る12の資質・能力

地域創造学における社会的実践力のとらえ（社会的実践力を構成する資質・能力の分類） (220401改訂版)

【社会的実践力】児童生徒が変化の激しい社会において、充実した人生を実現するために、豊かな心を持ち、主体的に未来社会を創造していくことができる力

☆ 汎用的スキル ★ 態度・意欲・学びの価値

A 地域理解		
自分たちの地域の自然や人々のくらしの様子、歴史や文化、現状や抱えている課題、活用資源を理解し、ふるさとに愛着をもちながら町の発展・創造に関わる自分の役割等を捉える資質・能力		・地域づくりの基盤となる、地域の事象への基礎的な理解。 ・地域を創造する主体である、自己の役割への理解。
B 社会参画に関する資質・能力 地域の事象(ひと・こと・もの)の理解に基づき、身の回りにある課題や問題を捉え、これからの地域の在り方や、よりよい社会づくりについて提案・発信することに関する資質・能力	1 ☆見通す力 【☆見】	・自分や集団にとっての課題や問題を発見する問題発見力。 ・目標の達成に向かって、解決の道筋を見通し計画する力。
	2 ☆多面的・多角的に考える力 【☆多】	・事象の特色や関連、意味や意義などを考察する力。 ・問題解決のために何を活用して何を行うか構想したり判断したりする力。
	3 ☆提案・発信する力 【☆提】	・よりよい地域づくりに向けた取組を提案する力。 ・考察したことや構想したことを効果的に発信する力。
	4 ★好奇心・探究心 【★好】	・身の回りや地域の事象に興味・関心を持つ態度。 ・知りたいことや解決したいことをみつけようとする態度。
	5 ★困難を解決しようとする心 【★解】	・失敗してもあきらめずに挑戦しようとする態度。 ・困難な場面に直面しても粘り強く取り組み、最後までやり遂げようとする態度。
C 人間関係形成に関する資質・能力 学びを深めたり、目標の達成を行ったりするために、他者とよりよく関わり協力することに関する資質・能力	1 ☆伝え合う力 【☆伝】	・考察したことや構想したこと等を、工夫しながら伝え合う力。 ・他者との対話の中で、自己の考えを広めたり深めたりする力。
	2 ☆協働する力 【☆協】	・目標達成に向かって、他者と協力して活動する力。 ・議論し合ったり、集団活動を統制したりする力。
	3 ★他者受容 【★受】	・多様な他者の考えや価値観、立場を受け入れる態度。 ・相手を尊重したり敬意を抱いたりしようとする態度。
D 自律的活動に関する資質・能力 自分自身の置かれている状況や考えていること、感じていることなどを認識し、それに応じてよりよい方向に調整しながら学びや活動を推進することに関する資質・能力	1 ☆自己を見つめる力 【☆自】	・自己の学びの状況や、成果・課題を客観的に把握し認識する力。 ・自己を見つめ、自己の変容や成長を捉える力。
	2 ☆調整する力 【☆調】	・自分の学びや活動をよりよいものになるよう調整しようとする力。 ・自分の学びを調整しながら思いや目標の実現に向かって活動する力。
	3 ★自己肯定感 【★肯】	・学びの過程を省察したり、やり遂げた達成感を味わったりしながら自分のよさを捉えようとする態度。 ・自分の可能性を前向きに受け止め、よりよいものを目指して取り組もうとする態度。

2 「地域創造学」の実施にあたって

(1) 1期目の成果と課題

①推進体制の確立

☆五つのステージのまとめ

- 第1ステージ: 保育園年長児、小学校1年、小学校2年
- 第2ステージ: 小学校3年、小学校4年
- 第3ステージ: 小学校5年、小学校6年、中学校1年
- 第4ステージ: 中学校2年、中学校3年、高校1年
- 第5ステージ: 高校2年、高校3年

2 「地域創造学」の実施にあたって

(1) 1 期目の成果と課題

① 推進体制の確立

☆ 社会的実践力の系統表

各ステージにおける社会的実践力の系統表 (220401改訂版)

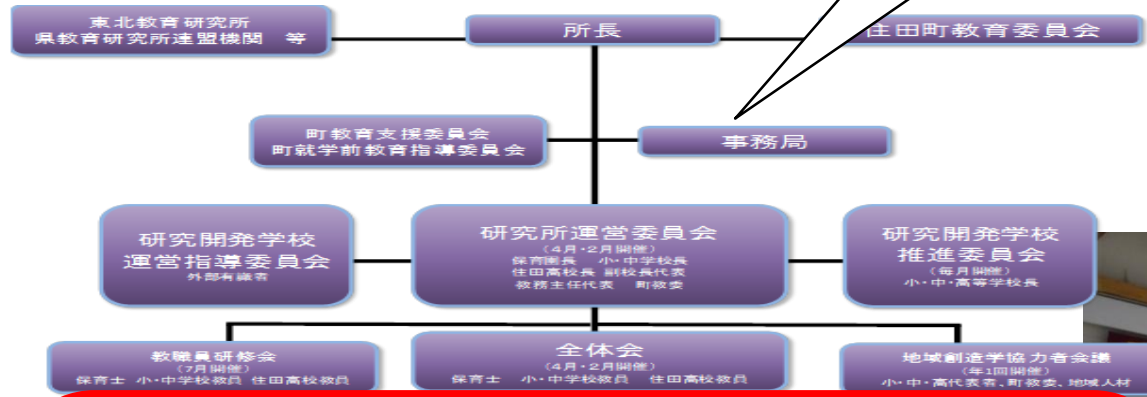
☆ 汎用のスキル		★ 態度・意欲・学びの価値		第1ステージ		第2ステージ		第3ステージ		第4ステージ		第5ステージ	
A～Dに関する各資質・能力とその定義				第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8	第9	第10
A 地域理解	自分たちの地域の自然や人々のくらしの様子、歴史や文化、現状や抱えている課題、活用資源を理解し、あると「愛着」をもたながら「発展・創造」に関わる自分の役割等を捉える資質・能力	地域の事象と関わる体験的な活動を通して、地域にどのような事象があるか理解し、そのよさを捉えることができる。	地域の事象を探る活動を通して、地域の事象の意味を理解し、事象への自分の関わり方について捉えることができる。	地域の事象を探究する活動を通して、地域の事象の意味を理解し、事象への自分の関わり方について捉えることができる。	地域の課題に対する提案や実践を通して、地域の事象のまちづくりにおける意義を多面的・多角的に理解し、地域における自分の役割について捉えることができる。	地域の課題に対する提案や実践を通して、地域の事象のまちづくりにおける意義を多面的・多角的に理解し、地域における自分の役割について捉えることができる。							
	・地域づくりの基礎となる、地域の事象への基礎的理解。 ・地域を創造する主体となる、自己の役割への理解。	地域の事象と関わる体験的な活動について、思いや願いをもち、手順を考えたり計画を立てたりして活動を行うことができる。	地域の事象について、自分との関わりから問題を見出し、予想や仮説をもとに探究活動の計画を立てることができる。	地域の課題に対する探究や提案・実践について、根拠を明らかにしながら目標を設定し、課題解決の見通しをもって計画を立てることができる。	地域の課題に対する探究や提案・実践を通して、地域の事象のまちづくりにおける意義を多面的・多角的に理解し、地域における自分の役割について捉えることができる。								
	★ 発見する力	【☆ 発見】	★ 多面的・多角的に考える力	【☆ 多面的】	★ 提案・発信する力	【☆ 提案】	★ 好奇心・探究心	【☆ 探究】	★ 困難を解決しようとする心	【☆ 解決】			
	地域の事象(ひと・こと・もの)の理解に基づき、身の回りにある課題や問題を捉え、これら地域の有り方、あり様を捉え、これらについて協働・発信することに関する資質・能力	・事象の特色や関連、意味や意義などを考察する力。 ・問題解決のために何を活用して何を打ち出すか検討したり判断したりする力。	・よりよい地域づくりに向けた取組を提案する力。 ・考察したことや構想したことを効果的に発信する力。	・身の回りや地域の事象に興味・関心を持つ態度。 ・知りたいことや解決したいことをきをつけようとする態度。	・失敗してもあきらめずに挑戦しようとする態度。 ・困難な場面に直面しても粘り強く取り組み、最後までやり遂げようとする態度。								
	★ 伝え合う力	【☆ 伝え】	★ 協働する力	【☆ 協働】	★ 他者愛着	【☆ 愛着】							
学びを深めたり、目標の達成を行ったりするために、他者とともに協力し、力を合わせることに関する資質・能力	自分の思いや願いに向かって、最後まで活動等やり遂げようとする。	互いの話し合いをもち、体験的な活動の中で考えたことや感じたことを伝え合うことができる。	友達や地域の人々、互いの思いや願い、実現のために協力して活動することができる。	身近な人々と一緒に活動する中で、相手の思いや考えを受け入れ、仲良く活動し、活動しあうことができる。	地域の事象と関わる体験的な活動を振り返り、分かったことや感じたこと、活動のよさについて考えることができる。	地域の事象を探究する活動を振り返り、自己の学びの進捗状況や現状について考えることができる。	地域の課題解決に向けた提案や実践の活動等を通して、地域の課題解決や目標の実現の観点から、自己の学びを振り返ることができる。	地域の課題解決に向けた提案や実践の活動等を通して、地域の課題解決や目標の実現の観点から、自己の学びを振り返ることができる。					
自分自身の置かれている状況や考えていること、感じていることなどを認識し、それらに応じてよりよい方向に調整しながら学びや活動を推進することに関する資質・能力	・自分の学びの状況や、成果・課題を客観的に把握し、認識する力。 ・自己を見つめ、自己の愛着や成長を捉える力。	活動の振り返りをもとに、思いや願いの実現に向けて、変えていきたいところを考えることができる。	自分の学びや活動を振り返り、自分自身の学びや活動の進捗状況や現状について考えることができる。	探究活動の振り返りをもとに、活動をどのように調整していけばよいか考えることができる。	探究活動の振り返りをもとに、活動をどのように調整していけばよいかを根拠を明らかにしながら考えることができる。	自己の学びを振り返った内容を根拠としながら、よりよい地域との関わり方の観点から、学びを修正して実現することができる。	自己の学びを振り返った内容を根拠としながら、よりよい地域との関わり方の観点から、学びを修正して実現することができる。						
★ 自己肯定感	【☆ 肯定】	★ 自己肯定感	【☆ 肯定】	★ 自己肯定感	【☆ 肯定】								
・学びの過程を振り返り、やり遂げた達成感や味わった楽しさから自分のよさを捉えようとする態度。 ・自分の可能性を前向きに受け止めて、よりよいものを目指して取り組みようとする態度。	自分でできるよさになったことを喜び、前向きに過ごすよう努める。	自分のよさや可能性に気付き、それらを発揮しながら自分の学びを高めようとする。	自分のよさや可能性に気付き、それらを発揮しながら自分の学びを高めようとする。	自分のよさや可能性に気付き、それらを発揮しながら自分の学びを高めようとする。	学びの中でつけた力や自己の学びに自信をもち、自分の将来や自己実現に生かそうとする。	学びの中でつけた力や自己の学びに自信をもち、自分の将来や自己実現に生かそうとする。							

2 「地域創造学」の実施にあたって

(1) 1期目の成果と課題

① 推進体制の確立

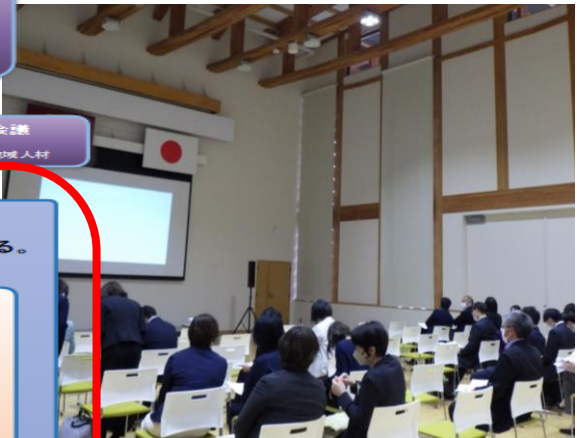
☆ 住田町教育研究所組織図



町教育委員会が中核となり推進

教育コーディネーター

ゲストアドバイザー



研究部会

社会的実践力を育むため、以下の3部会を設置し本町の豊かな教育の在り方を研究する。

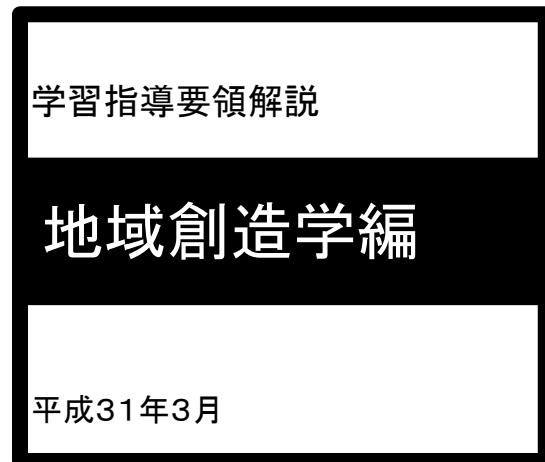
<p>学校カリキュラム検討部会</p> <p>地域創造学及び各教科・領域等において「社会的実践力」を育むために、「地域創造学」を中核に据えた教育課程の編成の在り方を検討する。</p> <p>(小・中・高の教務主任)</p>	<p>学習指導・評価検証部会</p> <p>地域創造学年間指導計画に基づいて授業実践・評価を行い、児童生徒の実態に応じて、他部会や地域と連携しながら、計画の見直しや指導の改善を図る。</p> <p>(保育園長・各級教員)</p>	<p>保小連携部会</p> <p>「すみた幼児教育（保育）プラン」及び「スタート・カリキュラム」に基づいて保育・授業実践を行い、保小の連携を図りながら、計画の見直しや保育・指導の改善を図る。</p> <p>(園長補佐・保育士・小1担任・小養護主任)</p>
--	---	---

2 「地域創造学」の実施にあたって

(1) 1期目の成果と課題

① 推進体制の確立

☆ 学習指導要領解説の作成



○ 児童生徒の主体性の重視

- ・ 主体性を生み出す学習課題の設定
- ・ 主体的な学びにつながる工夫

○ 地域創造学の特質を生かした学習指導の展開

- ・ 多様な学習展開（体験活動の重視、異校種の円滑な接続につながる学習）の工夫
- ・ 他地域や類似の事例にも学ぶ
- ・ 多様な考えを生かす言語活動
- ・ 地域創造学における六つの探究のプロセス

○ 評価の基本的な考え方

- ・ 教育達成評価
- ・ パフォーマンス評価の在り方
- ・ ポートフォリオの活用等

2 「地域創造学」の実施にあたって

(1) 1期目の成果と課題

②住田型探究のプロセスの実施

【住田町における探究の六つのプロセス】

プロセスはいつでも
一方向とは限らない



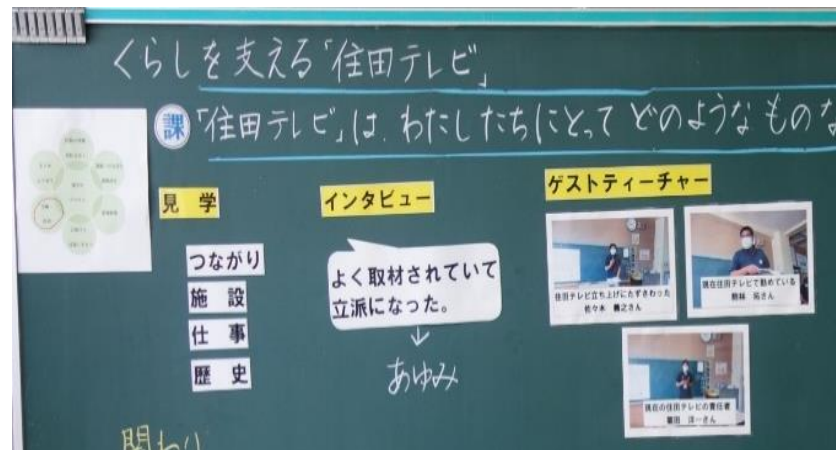
児童生徒の学習状況
に応じて、プロセス
を柔軟に往還させる



2 「地域創造学」の実施にあたって

(1) 1期目の成果と課題

② 住田型探究のプロセスの実施



名前

気仙川を守ろう まとめシート

気仙川の上流から下流まで見学し、気仙川と地域の人々との生活の関係について考え、気仙川を守るために自分たちができることは何かを考え実践する。

問題の理解 現状把握	① 自分たちにできることは何かを考える
課題への気づき 課題設定	② 「何を伝えたいか」について考える
情報収集	③ 「だれに」「どのように」伝えるか考える
計画する 見通しを持つ	④ 自分たちができることを実行する
実施・改善	⑤ 活動をふり返り、単元のまとめをする

① 気仙川を守るために、自分にできることを考える

2 「地域創造学」の実施にあたって

(2) 2期目に向けて

① これまでに開発してきたカリキュラム全体の不断の見直し

社会的実践力の系統表、学習指導要領解説、単元計画等を含むこれまでに開発してきたカリキュラム全体に関して、児童生徒や地域、保護者、教職員の実態等を踏まえ、適宜見直しを図る。

②「探究の六つのプロセス」と社会的実践力とのつながりを意識した学習評価の工夫

生徒が自身のプロジェクトを実現するそれぞれのプロセスの中で、どのようなことに困難さを抱き、どのように乗り越えていったのか。児童生徒が、「探究の六つのプロセス」を意識しながら、自覚的に自身の変容を振り返る機会の設定。

③社会的実践力を育成するための「地域創造学」教科書の開発・実施・改善

「探究の六つのプロセス」を大切にした探究の進め方、これまでの児童生徒のプロジェクト活動等の実践例の記載。

3 今期の取組について

☆単元計画改訂

第3ステージ 第6学年（4月～10月 44時間）

くらしを支える働き

1 単元設定の理由

住田町は人口4997人、そのうち約40%が65歳以上となっており、現在から約20年後の年少人口は、261人になると見込まれている。人口減少と高齢化という課題に対し、住田町が行っている「移住支援」「子育て支援」「高齢者支援」「観光事業」などの取組を学ぶことを通して、より自分事として、地域理解を深めていけるようにしたい。また、その他に、住田町民の暮らしを支える本町の取組の一つとして、「住田テレビ」がある。「住田テレビ」は、住田町が放送事業者となり、町内の出来事や行政情報を中心に情報を発信する町営のテレビ局である。番組を視聴するためには、住田町地域情報通信基盤施設への加入が必要であり、現在の加入率は98%となっている。そのため、児童にとって、身近な学習材となっている。

本単元では、これらの町民の暮らしを支える住田町の取組について探究していくことで、そのよさや課題について理解し、住田町のよさを再認識するとともに、住田町の将来的な在り方について自分の生活と関連させながら考え、発信していけるようにしたい。

2 単元の概要

段階	内容
1次	・住田テレビについて、製作現場の見学等を通して番組が出来るまでの様子や番組作りに関わる人々の様子などについて調べ、その概要を捉える。
2次	・住田テレビのほかに、地域の人々の暮らしを高めている働きについて、役場での聞き取り調査や施設の見学、資料等を通して調べ、その意義を考える。
3次	・探究した町の人々の暮らしを高めるための働きについて交流し合い、その意義について話し合う。

3 単元の目標

資質・能力の分類	目標
A 地域理解	町民のくらしやすさにつながる住田町の取組について探究する活動を通して、取組のよさや携わる人たちの思いについて理解することができる。
B 社会参画に関する資質・能力	町民のくらしやすさにつながる住田町の取組を調べ、そのよさや取組に関わる人たちの思いについて考えたり、探究した内容を発信したりすることができる。
C 人間関係形成に関する資質・能力	課題解決に向けて、携わる人と対話したり友達と話し合ったりするなど、協力して探究活動をすることができる。
D 自律的活動に関する資	町民のくらしやすさにつながる住田町の取組に関心をもって学び、自らの取組を振り返り、調整しながら主体的に探究することができる。

5 教科等の関連について

教科等・単元	関連する内容
6年 国語科（5月） 「聞いて、考えを深めよう」	質問事項を準備しておいたり相手の答えにさらに疑問に思ったことを質問したりすることで、効果的なインタビュー活動ができるようにする。
6年 社会科（5月） 「憲法とわたしたちの暮らし」	税金について学んだことを生かして、住田町の町づくりの在り方について考えることができるようにする。
6年 国語科（8月） 「いちばん大事なものは」	自分とは異なる考えを共感的に受け止めたり、好意的な聞き方をしたりすることができるようにする。
6年 国語科（11月） 「日本文化を発信しよう」	全体の構成を考えたり図や表を用いて自分の考えが伝わるようにまとめたりすることで、表現力を高められるようにする。

6 単元の指導

月	小単元名	プロセス	時	ねらい	主な学習活動 (◇ 指導上の留意点)	評価 (評価方法)
4月～7月	一次「住田テレビを調べよう」(2)と時間	問題の把握・現状の理解	2	住田テレビの概要を知り、住田テレビへの興味・関心を高めることができる。	① 住田テレビの取組について知っていることを話し合う。 ◇ 番組表などをもとに話し合う。 ② 住田テレビの概要や番組について調べる。 ③ 住田テレビについて調べてみたいことを考え、話し合う。	C1：伝え合う (住田テレビについての話し合いの際の発言)
			2	住田テレビについて調べる計画を立て、見通しをもつことができる。	① 住田テレビについて調べる内容と方法を考える。 ② 質問事項をまとめる。	B1：見通す (住田テレビについて調べる計画の記述)
			5	住田テレビを見学して、番組づくりの様子やこれまでの学習で疑問に思ったことについて調べることができる。	① 住田テレビを見学し、番組づくりの様子を調べる。 ② 調べたことを交流し、まとめる	B4：好奇心・探究心 (見学の際の観察)
		情報収集	5	住田テレビに関わる方の思いや願いについて調べることができる。	③ インタビュー活動を通し、家族や地域の「住田テレビ」への思いや願いを調べる。 ④ 「住田テレビ」の方と「住田テレビ」立ち上げに携わったゲストティーチャーの話から番組制作や「住田テレビ」に対する思いや願いについて調べる。	C3：他者受容 (授業内での発言が学習シートの記述)

3 今期の取組について

☆校種間連携

保育園（森の保育園活動）・小学校（種山学習）



森の保育園活動



小1の種山学習後の授業

3 今期の取組について

☆地域をフィールドにした学びにおける地域協力者



地域協力者(ゲストティーチャー)の活用は地域創造学の「醍醐味」!

☆地域創造学地域協力者会議

- 「学びの中で話したり、考えたり、発表したりすることを通して、大人や地域の人たちにも気づきを与えてくれることを期待」
- 「この町に何が必要で、何をすればよいのか、子どもの頃から考える事が出来るようになってほしい」
- 「地域について学ぶ中で、子どもたち自身の生き方を考える機会にもなっていると感じる」

3 今期の取組について

☆地域との協働

僕たち、私たちにできること

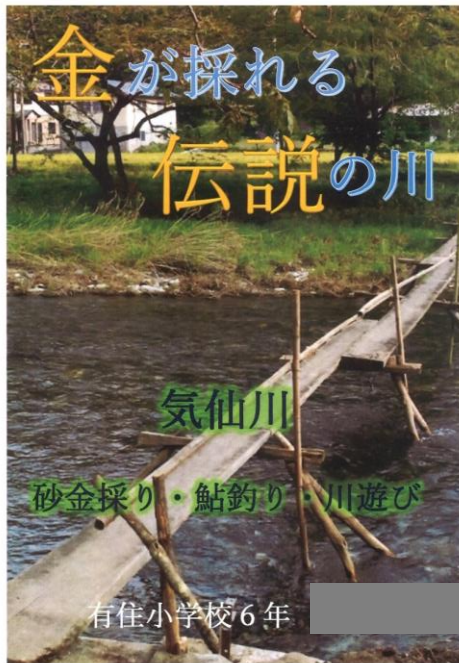
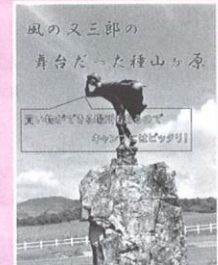
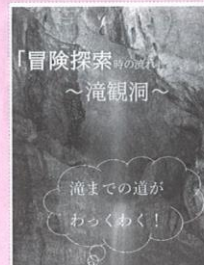
★問い合わせ
有住小学校 ☎ 48-2014

有住小学校の6年生は地域創造学の学習の一環として、町民のくらしを支える行政の働きについての学習を深めてきました。

その後、町のために自分たちにできることとして、ポスターを作成しました。町内外のたくさんの方々に町の良さを知ってもらい、さらに活気ある町になってほしいという思いが込められたこのポスターは、町内 10 箇所に掲示されています。

町役場では、交流プラザにて 11 月 30 日(木)まで掲示しますので、ぜひご覧ください。

▼役場でポスターを見た後は、児童への感想もお寄せください！

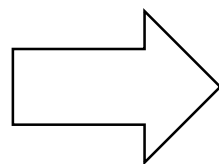


小学校6年生 単元「くらしを支える働き」より

3 今期の取組について

☆ 1 2 年間の学びをつなぐポートフォリオの活用

ワーキング
ポートフォリオ
(1年分)



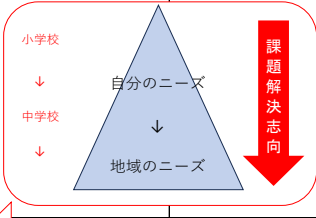
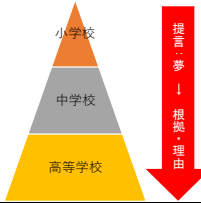
パーマネント
ポートフォリオ
(小学校～高校)

系統的にポートフォリオを活用した学習の蓄積

3 今期の取組について

☆住田型探究のプロセスの実施（「学びのコンパス」中学校）

3年 番 氏名（ ）

探究の6つのプロセス	現状把握 問題の理解	課題設定 課題への気付き	情報収集	見通しを持つ 計画する	実施・改善	まとめ（発表会）	振り返り
学びの各段階	・住田町の将来を創造するうえで、現在どのような課題があって、どのような取組がなされているのだろうか？	・数ある課題の中で、自分はどうな課題についてテーマを設定してみようかな？	・自分の課題（テーマ）を決めるためにはどのような情報を集めればいいのか？	・見通しをもった学習を進めるためにはどのように学習を進めていけばいいのか？	・学習を進めたら、課題がぼやけていたな～。もう一度、課題を整理してみようかな？調査をやり直してみようかな？	・こんな課題があるんだ！でも、こんなことが出来たら住田町がもっと住みよくなるかな？（提案・発信）	やっぱり住田町ってすばらしい町だな！これから郷土の発展の力になりたいな！○○さんの発表がすばらしかった。自分もあんな発表ができるになりたいな！
学びのポイント	<p>・設定する課題は一つになりますが、住田町はどのような課題を抱えているのかについて様々な視点から理解を深めます。</p> 	<p>・解決策を探りたい分野を決めて課題を設定します。その際、単に自分の興味関心だけで判断するのではなく、例えば「どの年齢層の方々にどの課題になってんだろう？」のように考えるともっと課題がしぼられます。</p>	<p>①課題の現状を詳しく調べます。 ②課題を解決するためにはどのような情報を集めればいいのかを洗い出します。（多角的・多面的な見方） <注意事項> ・アナログとデジタルの両者の良さを大切にしましょう。（複数の視点から情報収集する） *アナログ：実際に現場に向いたり、住民に聞き取り調査等を行う。図書館で関連資料を見つける。 *デジタル：インターネットの情報が正しいとは限らないので注意する。</p>	<p>・行き当たりばったりにならないように、以下のような視点から時間配分を考えて学習を計画的に進めましょう。 ①情報収集に何時間かかるのか。 ②情報を分析し、表やグラフなどにまとめるのに何時間かかるのか。 ③住田町の魅力アップや課題解決のためにどのような取組が考えられるのか。 ④発表に必要な準備としてパワーポイントを作成することになるが、図やグラフ等の理由や根拠となる資料を作成する。</p>	<p>・作成した計画にしたがって学習を進めていきます。その際、計画通りに学習が進まないことがよくあります。学習を終えるたびに、学びを振り返りながら学習計画を修正していきます。</p>	<p>・自分の調査したことや、その分析、考察を図やグラフ等の資料にまとめ、理由や根拠を明らかにして提言を聞く側に分かるようにまとめることが大切です。 ・発表は原稿を読むようなことにならないようにしましょう。</p> 	<p><振り返りの視点> ①地域の課題について新たに理解を深めることができた（地域理解） ②地域の課題について解決策を考えることができたか（社会参画） ③学習を進めていく中でどれだけの方々に支えられてきたか（人間関係形成） ④学習を進めていく中で、力を入れたこと、注意したこと、苦労したこと等（自律的活動） ⑤次年度（高校舎）はどのような課題に取り組んでみたいか（次年度への抱負）</p>
学習を進める上での心構え	<p>学習を自分でコントロールする ※困った時には自分から何で困っているのかを先生と相談してみましょう</p>						
時間の計画	時間	時間	時間	時間	時間	時間	時間
時間の計画の例	4 時間	5 時間	8 時間	6 時間	2 1 時間	8 時間	4 時間



こんな住田町になってほしい！！



まとめ（発表会）について

- A段階（もっと高いレベルの発表を目指そう！）**
- 理由や根拠を明らかにして調査内容を分析し、自分の考察を加えたうえで、聞く側にわかるようにまとめている
 - 調査内容や分析、考察などを図やグラフ等の資料も活用してまとめている
 - 他教科で学習した知識・技能を活用してまとめている
 - 原稿にとらわれず、状況に応じて表現を工夫している（相手意識）
- B段階（全員到達しよう！）**
- 理由や根拠を明らかにして聞く側にわかるようにまとめている
 - 調査内容や分析、考察などを図やグラフ等の資料も活用してまとめている
 - 原稿の読み上げではなく、自分の言葉で発表している

3 今期の取組について

☆住田型探究のプロセスの実施（「名人カード」小学校）

5年 「東日本大震災津波から学ぶ」名人になろう②

探究のプロセス	①現状把握 問題の理解	②課題設定	③情報収集	④見直しを持つ 計画する	⑤実施 改善	⑥まとめ・振り返り	
学習 か だ い	東日本大震災に対して、住田町はどんな取組を行ったのだろうか	東日本大震災に対する住田町の取組について調べたいことを決めよう	東日本大震災に対する住田町の取組について調べよう	自分が設定した課題について調べる内容や方法を計画しよう	これまでの学習を振り返り、くわしく調べたりよりよくまとめたりするための方法を考えよう	調べたことをまとめたり発信したりしよう	これまでの学習を振り返り、付いた力について考えよう
名人 に な る た め の	何か知っていることはあるかな？ 人々はどんなことに困っていたのかな？	どうしてその取組を調べたいと思ったのか その取組はどんな人の役に立ったのかな？	情報を集める方法は一つだけいいかな？ どんな思いやねがいをもっているのかな？	これまでのように調べ学習してきたか どんなことを調べたり聞いたりしたらくわしくなれるかな？	課題を解決するためにもっとくわしく調べたいことは何ですか？ どうすれば分かったことや考えたことをよりよく表現できるかな？	だれに伝えようかな？ どうやって伝えようかな？	どんな力が付いたかな？ 付いた力や学んだことをどのように生かしていきたいかな？
すごい! 	□東日本大震災と住田町の関わりについて気付いたことや考えたことを伝えることができました。	□くわしく知りたいこととその理由について考えることができました。	□本や体験、インターネットやゲストティーチャーから進んで情報を集め、事実だけでなく人の思いや願いについての情報を集めることができました。	□調べる方法や内容と発信方法を考えることができた。	□くわしく調べたりよりよく表現したりするための方法を考え、よりよく改善できました。	□調べたことや分かったことを写真、動画、図などを使いながら分かりやすくまとめ、発信することができた。	
いいね 	□東日本大震災と住田町の関わりについて分かった。	□くわしく知りたいことを決めることができた。	□本や体験、インターネットやゲストティーチャーから進んで情報を集めることができた。	□調べる方法や内容を考えることができた。	□くわしく調べたりよりよく表現したりするための方法を見つけ、まあまあ改善できた。	□調べたことや分かったことをまとめ、発信することができた。	□付いた力について考え、次に生かしたいことを考えることができる。

※どこからはじめてもよいのです。
たちどまったり、もどったりしてもよいのです。

3 今期の取組について

☆地域創造学における指導の在り方



あくまで基本的な流れであり、一方向的な流れにとらわれず、児童生徒の探究の段階を見極めながら、柔軟に指導計画を見直していく。

「教師は、子どもたちの**伴走者**として、
主体的な学びをサポートする。」

3 今期の取組について

☆これまでの児童生徒のプロジェクト活動等の実践例

地域創造学の探究のプロセス

一般的な探究のプロセスは、「問題の理解」をスタートとし、「課題設定」、「情報収集」と進んでいくことが多いですが、プロセスはいつでも一方とは限らず、時に「実施・改善」と「見直しを持つ」のプロセスを行き来したり、「問題の理解」からではない段階がスタートとなって学びが始まったりすることもあります。そこで、地域創造学では下の図のように探究の6つのプロセスを設定しています。学習状況に応じてプロセスを柔軟に変更することも、地域創造学の特徴の一つです。

① 「問題の理解・現状把握」及び② 「課題への気づき・課題設定」

<活動例>

- 既に問題状況が「発生」している事象を見る、聴く、共感することで課題を設定する
- 状況が把握できる中から問題状況を「発見」し、感じ取ることで課題を設定する
- 状況が把握できていない未知の事象から仮説を立てて問題を「発掘」し、課題を設定する

③ 情報収集

<活動例>

- 情報収集の手段を選択し、調べる
- 多様な情報にある特徴を見つける
- 収集した情報を整理し、より深く分析する
- 分析した情報から、確かな根拠を持って課題を焦点化する

④ 計画する・見直しを持つ

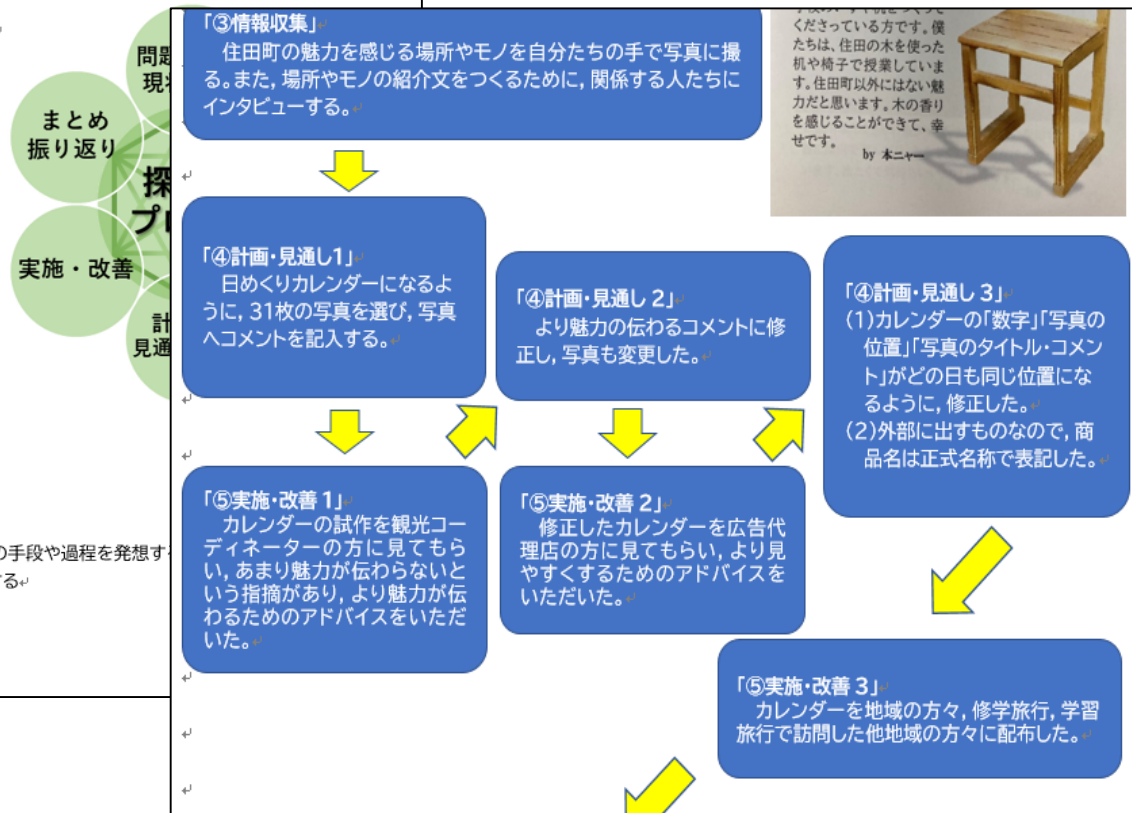
<活動例>

- 情報や事象を比較したり関連付けたりして、課題解決のための手段や過程を発想する
- 発想したことを基に、解決のための実施計画を検討し、構築する

⑤ 実施・改善

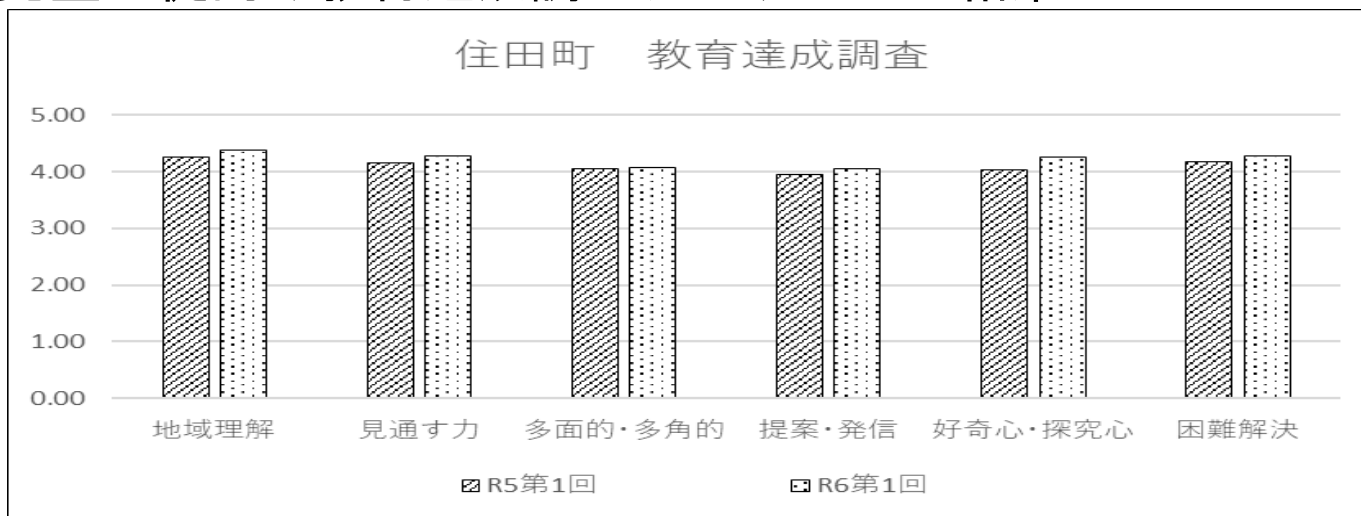
<活動例>

- 課題解決に向けて具体的に計画した活動を繰り返す



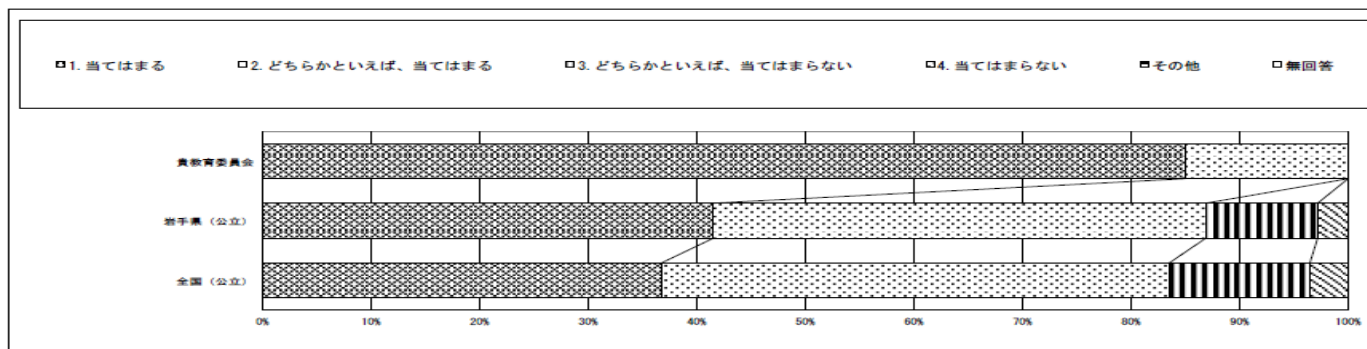
3 今期の取組について

☆児童生徒向け教育達成調査アンケートの結果



☆令和6年度全国学力・学習状況調査 児童質問紙

質問番号	質問事項											
(25)	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴教育委員会	85.0	15.0	0.0	0.0							0.0	0.0
岩手県（公立）	41.6	45.4	10.3	2.8							0.0	0.0
全国（公立）	36.8	46.7	12.9	3.5							0.0	0.0



3 今期の取組について

☆成果

- 住田町独自のカリキュラム開発及び実践
- 児童生徒の変容
- 指導者の意識の高まり
- 部会を中心とした組織的な取組
- 地域との協力体制の確立

☆課題

- △社会的実践力を系統的に育成していくための単元計画
- △児童生徒の主体性を大切にした系統的な指導方法
- △各評価場面に応じた適切な評価方法
- △効果的かつ持続可能な異校種間連携

4 「地域創造学」の価値

○児童生徒の社会参画、地域づくりの当事者意識の醸成

- 体験活動を通じて、地域づくりを主体的に目指す
- 他と協働するために積極的にコミュニケーションを図る
- 郷土を愛し、持続可能な社会を創造しようとする

4 「地域創造学」の価値

○各地域で実施可能な内容

- 校種をこえた汎用性のある「資質・能力」の育成
- 学校、地域、行政の協働
- 県内の他地域において住田の取組に対する関心の高まり

**地域を支える人材の育成が急務である。
地域はそこにあり続けるとすれば、それを支える人材が
なければならない。**

令和3～6年度 文部科学省研究開発学校指定

**新設教科「地域創造学」を中核とした
教育課程等の開発による社会的実践力の育成
～小・中・高等学校の滑らかな接続を活かして～**

ご清聴ありがとうございました

日時：令和7年1月23日（木）

住田町立世田米小学校 外4校